湘北短期大学保育学科卒業生の就職先における状況と評価
―2016 年・2017 年・2018 年卒業生について―

髙木 友子 [a]

[a] 湘北短期大学保育学科

【抄録】

直近 3 年以内の湘北短期大学保育学科卒業生の離職率など就労状況について初めて調査を行った。得られた離職率 11.3% は他学科や民間保育士の離職率と比べて大きな差はなかった。短期大学卒業新卒者の全国平均と比較すれば良好と言える。保育現場における卒業生と本学の評価は概ね良好であった。保育現場が新卒者に求める能力として保育の専門知識や技術よりも人柄や学習意欲に重きが置かれていることが分かった。

【キーワード】

保育士　離職率　採用理由　人柄　意欲

1．問題

本学は現在、総合ビジネス・情報学科、生活プロデュース学科、保育学科の 3 学科より構成される。「社会でほんとうに役立つ人材を育てる」ことを教育の理念としている。そのため、いずれの学科もキャリア教育・支援には尽力し、実就職率（就職内定者数 /（卒業生数―進学者数）× 100）においても全国の短大に先んじて 90% に達し、2017 年度から全国平均が 90% を超えると本学の実就職率は 95% を超えるようになった（文部科学省　2016，2017，2018；湘北短期大学キャリアサポート部）。

しかし、進路と教育の成果は、就職して終わりではなく、卒業生が就職先へ定着し、期待される能力を発揮することでもある。

日本社会における働き方が変化し、終身雇用制度が解体されつつあるが、特に新人として職場で教育を受ける部分も多い新卒者はある程度の期間職場に定着し、その教育の成果を元に労働することが期待される。けれども、今日、短大卒業者の約 4 割が新卒就職 3 年以内に離職しており（厚生労働省）、厚生労働省はこの状況を望ましい状態とは捉えておらず、若者が希望する職業に就き、働き続けられるように教育・支援をすることが教育・行政機関を始めとする社会の課題となっている。

就職率では全国に比べて優良な状態を示している本学の卒業生が就職先に定着し、また本学が目標とする「役立つ人材」と成り得ているかを検証するためには、卒業後の追跡調査が必要となる。総合ビジネス・情報学科と生活プロデュース学科については本学キャリアサポート部が既に就職先

＜連絡先＞

髙木 友子　takaki@shohoku.ac.jp

への調査を行っていたが、保育学科卒業生に関しては調査が行われていなかったため、2018年度に初めて保育学科卒業生の就労状況についての調査を行った。本稿は第1回保育学科卒業生の就労状況調査結果について報告し、保育学科卒業生の就労状況と勤務先からの評価から本学科に期待される教育内容まで考察する。

本学保育学科は現在135名を定員とし、幼稚園教諭Ⅱ種、保育士、社会福祉主事任用資格の3つの資格を必要単位取得者に卒業時付与している。これまで卒業学生の95%以上が卒業時に3つの資格を取得しており、卒業時の就職先も殆どが保育所、幼稚園、認定こども園、その他の福祉施設など就職に保育資格を必要とする施設である。

保育職は元より子どもや施設利用者の生活と安全に責任を持つ職業であり、心理的負担も身体的負担も軽くはなく、責任の重い仕事である。そうであるにも関わらず、賃金が全職種平均を下回り、労働量も多いことは長く問題視されていた。

ことに2016年、SNSへの「#保育園落ちた。日本死ね！」投稿以来、乳幼児の入所枠確保のために、保育所と保育士の就労状況は今まで以上に社会の注目を浴びている。安定した保育の供給のためには保育者の定着が必要である。しかし、前述した就労条件の問題に加え、2000年代に入ってから少子化対策と女性労働人口の確保のために、保育施設の基準は緩和され、今日では乱立ともいえる状況になる一方で、若年層は減少傾向にあり、新たに保育士を増やすことも容易ではなく、保育士は施設間で奪い合いのようになり、それがさらに保育士の定着を妨げるようなことも生じている。

以上のような理由で保育者の定着問題は他の職種以上に社会の耳目を集め、重要な問題となっている。

本調査では、これまでの本学キャリアサポート部の他学科就労状況の調査に倣い、直近3か年の卒業生について就職先に就労状況と採用理由、本学の教育への期待を質問紙により尋ね、離職率から定着の度合いを確認し、そこから保育者の保育施設への定着に繋がる進路指導と保育現場から求められる保育者養成の指導内容について検討する。

2．方法

①方法

質問紙を郵送し、回答をファクシミリまたは電子メールへの添付で得る。

②対象

本学保育学科2016年、2017年、2018年卒業生の就職した232園・法人（公務員と一般企業は除く）の内、100園・法人を選出した。

卒業生の就労状況を知ることが本調査の目的の一つであるため、あえて無作為抽出ではなく、複数年にわたって就職があった園・法人と学生数が多い地域(神奈川県、東京都、静岡県東部。ただし、園が該当地域にある場合、法人本部が他地域でも調査対象とした。)にある園･法人を優先的に選び、一方で姉妹法人であるあゆのこ保育園に代表される日常的に交流があり、卒業生の状況や本学への評価が確認できている園は今回の調査対象から外した。

選出した100園･法人の内、保育所が50園･法人、幼稚園が42園・法人、認定こども園3園、その他の福祉施設が5園・法人であった（調査当時）。

71園・法人から回答が得られ、回収率は71%となった。回答が得られた園・法人の内訳は、保育所が35園・法人、幼稚園が29園・法人、認定こども園が3園･法人、福祉施設が4園･法人であった。

124名の卒業生についての回答が得られた。

③調査時期

2019年2月22日から3月15日。

④質問項目はこれまでキャリアサポート部が使用してきたものを土台に保育学科に当てはまらない項目（会計やITの専門的スキルなど）は保育の専門性に合うように修正した。回答用紙には予め園名または法人名と入職した卒業生の氏名と入職年を記入して送付した。回答者の所属、役職名、氏名の記入も求めた。

質問項目は以下の通りである。

・入職時配属園

・現状、在職か退職か

・最近配属園

・退職の場合の退職理由（選択肢【複数回答可】：結婚·【結婚以外の】家庭の事情・体調不良・仕事内容・人間関係・園風や風土・待遇面・不明・その他）

・本学卒業生への評価（以下、５項目について「そう思う・ややそう思う・あまり思わない・そう思わない」の４段階評価）

「挨拶や礼儀、社会人としてのマナーが身についている」

「仕事に対して、熱意を持ち、積極的に取り組んでいる」

「協調性があり、職場での人間関係がうまくいっている」

「専門知識や保育技術に優れている」

「仕事に関する学習意欲や向上心を持っている」

・本学卒業生は、貴法人の人材ニーズや期待に応えていると思われますか。（「十分応えている・どちらかと言えば応えている・やや不足している・不足している」の４段階評価。）

・本学卒業生が、不足している能力、身につけるべき能力があればお選び下さい。（選択肢【複数回答可】：専門知識・保育技術・文章力と語彙力・マナー・一般常識・その他）

・本学の学生を採用した理由（選択肢【複数回答可】：人柄・意欲・コミュニケーション能力・協調性・専門知識・保育技術・その他）

・本学の就職指導に関して、ご意見があればご記入ください。（自由記述回答）

３．結果

施設の種類別に得られた標本数は認定こども園３、その他の施設５は少なく、また、保育所と幼稚園に関しては施設種別毎に分類して集計したがいずれの項目についても施設毎の傾向に大きな違いはなかったため、以後、結果は施設種別を分けず、全体について述べる。

①離職率と離職理由

124名の卒業生について回答が得られた。その内、調査時点での在籍者が110名、離職者が14名であり、3年以内の離職率は11.3%であった。

卒業年別の離職者数、離職率を見ると、新卒にあたる2018年卒業生は32名全てが在職しており、離職者はいなかった。2017年卒業生、2018年卒業生共、それぞれ46名について回答が得られ、その内、両年共39名が在職、7名が離職しており、離職率は17.9%であった。

離職の理由は結婚によるもの２名、結婚以外の家庭の事情によるもの１名、体調不良によるもの３名、人間関係によるもの３名、仕事内容によるもの２名、その他の理由が３名であった。標本数が少ないので施設種別の影響は分析できないが結婚を理由とした離職２名は両名とも幼稚園勤務であった。

②卒業生への評価

「挨拶や礼儀、社会人としてのマナーが身についている」という項目について「そう思う」と回

答した園･法人は 40 園･法人（56.3%）、「やや思う」と回答した園・法人は 24 園・法人（33.8%）、「あまり思わない」と回答した園・法人は 5 園・法人（7.0%）、「そう思わない」と回答した園・法人は 1 園･法人（1.4%）、その他（回答不備）1 園･（1.4%）であった。

「仕事に対して、熱意を持ち、積極的に取り組んでいる」という項目について「そう思う」と回答した園･法人は 45 園･法人（63.4%）、「やや思う」と回答した園・法人が 23 園・法人（32.4%）、「あまり思わない」と回答した園・法人が 2 園・法人（2.8%）、その他（回答不備）が 1 園（1.4%）であった。

「協調性があり、職場での人間関係がうまくいっている」という項目について「そう思う」と回答した園・法人は 42 園・法人（59.2%）、「やや思う」と回答した園が 24 園・法人（33.8%）、「あまり思わない」と回答した園･法人が 2 園･法人（2.8%）、「そう思わない」と回答した園・法人が 2 園・法人（2.8%）、その他（回答不備）の園が 1 園（1.4%）であった。

「専門知識や保育技術に優れている」という項目について「そう思う」と回答した園・法人は 22 園・法人（31.0%）、「やや思う」と回答した園・法人が 38 園・法人（53.5%）、「あまり思わない」と回答した園・法人が 10 園・法人（14.1%）、その他（回答不備）が 1 園（1.4%）であった。

「仕事に関する学習意欲や向上心を持っている」

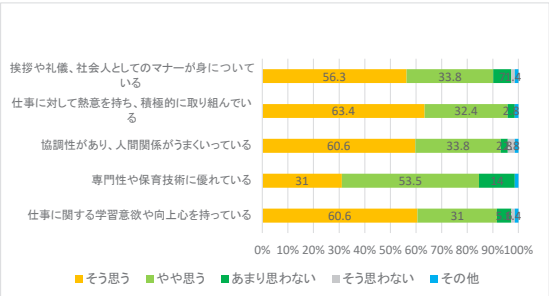

図１　卒業生への評価

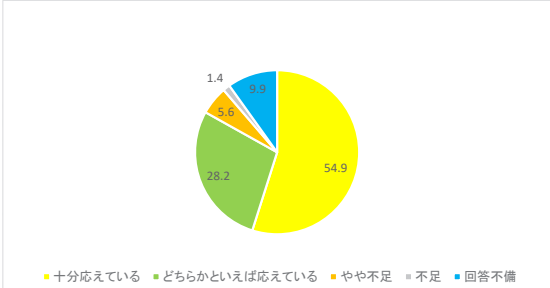

図２　人材ニーズや期待に応えられているか

という項目に関して「そう思う」と回答した園・法人は 43 園・法人（60.6%）、「やや思う」と回答した園・法人が 22 園・法人（31.0%）、「あまり思わない」と回答した園･法人が 4 園･法人（5.6%）、「そう思わない」と回答した園・法人が 1 園・法人（1.4%）、その他（回答不備）の園が 1 園（1.4%）であった。

③ニーズや期待に応えられているか

「本学卒業生は、貴法人のニーズや期待などに応えていると思われますか」という質問に対して「十分応えている」と回答した園・法人は 39 園・法人（54.9%）、「どちらかと言えば応えている」とい回答した園･法人が 20 園･法人（28.2%）、「やや不足している」と回答した園・法人が 4 園・法人（5.6%）、「不足している」と回答した園・法人が 1 園・法人（1.4%）、その他（回答不備など）が 7 園・法人（9.9%）あった。

④不足している能力・身につけるべき能力

本学卒業生が不足している能力、または身につけるべき能力として複数回答可で回答を求めた。以下、複数回答可なので % は全回答協力園・法人数 71 園・法人に対するものである。多く選択されたのは一般常識（11 園･法人 15.5%）であり、次いで、保育技術（10 園・法人 14.1%、内ピアノ技術 3 園・法人 4.2%）、文章力・語彙力（10 園・

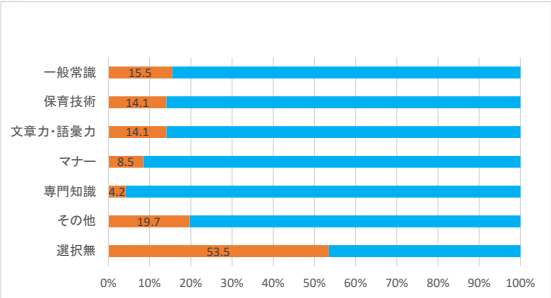

図３　不足している能力・身につけるべき能力

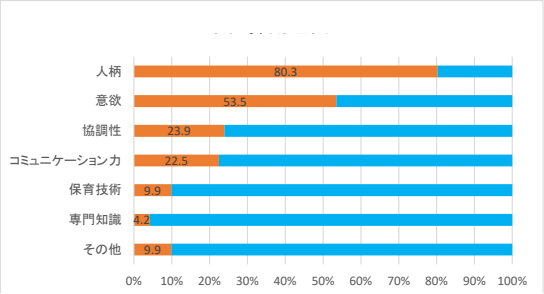

図４　採用理由

法人 14.1%)、が選択された。マナーが 6 園・法人(8.5%)、専門知識が 3 園・法人（4.2%）から選択され、その他の回答が 14 園・法人（19.7%）からあり、その中身としては、規則正しさ、コミュニケーション能力、気働き、感情コントロール、体調管理、企画力、リーダーシップなどが挙げられた。その中でも、締め切りを守るなどの規則正しさは 3 園・法人から挙がった。

一方で 38 園・法人（53.5%）からは選択がなく、また不足・期待する能力を回答した園・法人でも「不足というより高い方が理想ということ」と書き添えられていたりした。

⑤採用理由

本学卒業生の採用理由として最も多く選択された（複数回答可）のは人柄であり、57 園・法人（80.3%）が選択した。次いで、意欲が 38 園・法人（53.5%）に選択され、協調性が 17 園・法人(23.9%)、コミュニケーション能力が 16 園・法人(22.5%)、保育技術が 7 園・法人（9.9%)、専門知識が 3 園・法人（4.2%）によって選択された。その他の回答も 7 園・法人からあり、内容は卒園児であることや、実習態度、さらに以前の卒業生の評価などであった。

⑥就職指導への意見

一部の卒業生の力不足についての注意、課題の指摘などもあったが、大方は卒業生の働きと本学の教育への満足が記述され、今後の求人への応募などを求めるものなどが多かった。

４．考察

本学保育学科の直近 3 か年の卒業生の民間保育現場からの離職率は 11.3% であった。これは本学キャリアサポート部が同時期に同様にして本学の総合ビジネス情報学科と生活プロデュース学科の３か年卒業生についての調査から得た離職率 9.3% と大きな差はないと言えるだろう。

また、保育士に限定されるが厚生労働省が発表している民間園に勤務する保育士の離職率は 12.0% であるので、数値だけ見るならばほぼ差はないと言える。ただし、問題で述べたように今回の調査では姉妹法人のように日常的に交流があり、卒業生の定着が確認されている、つまり離職率の低い園を数園あえて調査対象から外している。その点を考慮すると本学保育学科の園への定着率は全国と比べて悪くないと考えられる。

また、こちらは全職種の離職率となるが「３年後」離職率は 4 大卒で 3 割、高卒で 4 割、短大卒はその中間と考えられるが、今回の保育学科の調査では「３年後」にあたる 2016 年卒業生の離職率は 17.9% であり、4 大卒平均離職率よりも低いものとなっている。

実のところ、保育士の離職率は他の職種と比べ

てそう悪くはない。厚生労働省（2019）によれば離職率のワースト３の職種は、宿泊・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽、教育・学習支援業でいずれも５割前後の離職率となり、それらに次いで保育士職の含まれる医療・福祉の39%となるが、それも保育士のみの離職率よりは高いものである。

今回、卒業生に関して得られた離職理由については、出産を経ても就労を継続する女性が増えつつある現在、結婚など家庭の理由で離職するものが比較的多いのは改善を図りたいところであるが、離職状況の詳細まではわからないので詳細の検討は別の機会を待ちたい。

次に注意すべきは体調不良と人間関係を離職理由にするものが複数いることであろう。保育職が体力を多く必要とする職とはいえ、20代前半に就職３年以内で離職するほど体調を崩す者が複数でる状況は看過されるべきではなく、学生時代からの体調管理と体力作り、そして園での就労状況の確認をすべきであろう。人間関係が離職理由となるケースでは、同園でも別の卒業生は勤務を継続している状況があることから、就職前に一人一人の学生がコミュニケーション能力と精神衛生の維持の仕方を身に着けることと、就職活動時、学生に合った園の選択が肝要であることがわかる。

卒業生の評価項目でも、ニーズや期待に応えているかという質問でも８割から９割の園・法人が「そう思う」「やや思う」を選択している点からも、また、「不足している能力・身につけるべき能力」を尋ねた時半数以上の園・法人が特に現状以上に求めてない点からも、今回、回答を得られた園・法人には概ね本学科と卒業生は良い評価を得られていると言えるだろう。

卒業生の評価に関しては、マナーや熱意、協調性、学習意欲などに比べると、専門知識と保育技術の評価は低い傾向にあった。しかし、だからと言って、専門知識や技術が「不足している」とか就職前に「身につけるべき能力」として必ずしも選択されていない。つまり、それらの知識と技術は就職時に高度なレベルに達していることは必ずしも求められていないと考えられる。それ以外のコミュニケーション能力や規則正しさなどは、一部の卒業生に関して力不足の厳しい指摘もあった。

半数以上の園・法人は卒業生の現状に満足しているようだが、不足しているまたはさらに身に着けるべきと選択された能力もあり、それらは保育技術や専門知識などもあったが、一般常識や文章・語彙力、マナー、コミュニケーション能力や規則正しさ、気働きなど、保育職に限らず広く社会人として求められるものであった。それらの対策として本学科は暫く前からマナー講座を設けており、また、実習指導や学生生活の日常で社会人としての力の育成を心掛けている。その教育が多くの園・法人からの支持に繋がっていると考えられるが、まだ力不足のまま卒業してしまった学生もおり、指導においてさらなる努力が必要と考える。

保育現場が求めるところは採用理由においても明らかであり、保育技術や専門知識を挙げた園・法人は多くはなく、圧倒的に人柄や意欲が評価されていた。これは他の学科での調査でも同様の傾向であった。

今回の調査を通して本学科と卒業生が多くの園・法人から評価されていることが確認できた。また、就職時に現場が求めるものは専門的な知識や技術よりも人柄や労働や学習への意欲であることがわかった。専門知識や技術は学ぶ意欲が在りさえすれば、働きながらも身に着けることが可能である。現場では知識や技術よりもまず、社会人として同僚・部下として信頼できる人柄とこれから学び続ける意欲を求めているのであろう。

本学科では資格に求められる知識と技術の指導

にも当然力は尽くしてきたが、本学科の指導の特色としてマナーやコミュニケーションの指導に力を入れていることが挙げられる。今回、その成果が評価されたと言えるだろう。

他方、今回の調査の中で本学に限らず、新人のコミュニケーション能力の不足に触れられていた。少子化や IT 化、社会の変化で若者のコミュニケーション能力の弱体化は問題視されているところである。本学科への入学者だけが例外とはならないだろう。それは一部の卒業生が厳しい評価を受けていることにも通じていると考えられる。卒業生たちが心身共に健康でよき仲間とよき保育を行うために、さらなる指導の充実と体調や精神衛生の管理の支援が求められる。

5．参考文献など

厚生労働（2015）「保育士等に関する資料」https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/s.1_3.pdf
厚生労働省（2019）「新規学卒者の離職状況（平成 28 年 3 月卒業者の状況）を公表します」https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000177553_00002.html
文部科学省（2016）「学校基本調査」
文部科学省（2017）「学校基本調査」
文部科学省（2018）「学校基本調査」
湘北短期大学キャリアポート部「就職データ」https://www.shohoku.ac.jp/future/data.html

謝辞

本調査にご協力くださった保育所・幼稚園・認定こども園・学校法人・社会福祉法人・保育企業のご担当者様、現場で頑張っている卒業生の皆さん、調査の機会を与えてくださった宮下次衛理事長、大野恵美学科長、調査票作成・送付・回収にご協力くださった赤井裕美准教授、大川なつか講師、川原京子さん、資料提示や考察に助言を下さった本学キャリアサポート部の皆様に心より感謝申し上げます。

Shohoku junior college graduate nursery and preschool teachers' estimation and employment status － who graduated over 2016, 2017, and 2018

Yuko TAKAKI

【abstract】

This was the first research about SHOHOKU junior college graduate nursery and preschool teachers' employment status. Almost of them and SHOHOKU junior college got high estimation from their bosses. Their turnover rate is 11.3%, which is almost same as one of other graduates with other jobs, and the national average of the private nurseries. Their bosses regarded their personality and motivation more important than specialized knowledge and skills for hiring.

【key words】

junior college, nursery teacher, preschool teacher, employment status, turnover rate, personality, motivation